

【山崎名誉主 宰の俳句】

ひさびさに

山崎 聰

黄塵の草加越谷みちのくへ  
きっかけは春の小径をもう少し  
待ちたまえ藤の花房消えるまで  
大川の橋をわたってはりえんじゅ  
きょうからは部屋を明るく濃紫陽花  
ひさびさに会えば楽しく夏の霧  
誰からも相手にされない青蛙  
気にすれば気になる話初夏の月  
夏至の空眺めて山の高いところ  
落葉みちその先たしかに濡れている